

## 近代化産業遺産「若松鉷山」について

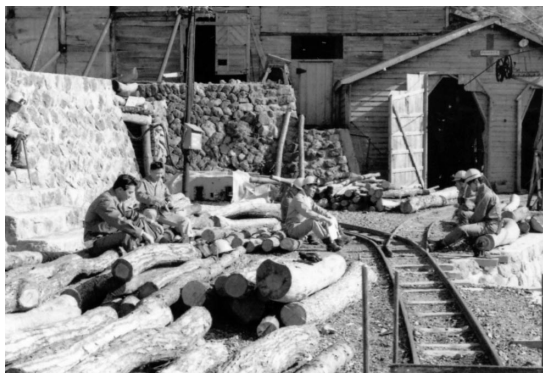
船越博之<sup>1)</sup>

日本国内最大のクローム鉷の埋蔵量を誇っていた若松鉷山は、日本クローム工業株式会社の所有するクローム鉷山です。

日本クローム工業(株)は、大正8年1月28日に会社組織になり、小生の祖父、船越作一郎が初代社長に就任、父、晋が二代社長、小生、博之は三代目です。平成8年9月に休山するまで長年にわたりクローム鉷石を採掘・生産し、販売してきました。

クローム鉷は耐火度が非常に高く、耐火煉瓦の原料として主に製鉄の平炉に使われていました。製鉄の技術進歩により平炉が転炉に代わり、クロームが不要になってからは、電気炉の内壁や、セメント製造のキルンの内壁に使われてきました。

戦前にはクローム鉷を馬の背に乗せて境港まで運び、アメリカ等にも輸出されたと聞いています。また、戦時下は横文字の使用を控えるために、一時期会社名を「日本苦勞無工業(株)」と称した時もあったそうです。若松鉷山が特に興隆したのは、昭和20年代の朝鮮戦争の頃からです。昭和20年代、30年代頃まで



第2図 中部坑々口前で坑木の上に腰を下ろして休憩する風景。

の主な販売先は、岡山県備前の大谷炉材、興亜耐火工業(株)、大阪堺市の大阪窯業(株)、兵庫県高砂市の播磨耐火煉瓦(株)(現、黒崎播磨(株))等でした。韓国にも大量に輸出されていました。その後、三井物産(株)、備前の品川白煉瓦(株)、(株)ヨータイ、九州耐火煉瓦(株)等にも販売先を広げました。最盛期には年産3万トン余を生産し、従業員も日南町多里地区を中心に100人余の人に働いていただいていた。

船越は、小生まで三代にわたって多里地区、日南町の方々のお世話になってきましたので、何とか日南町のお役に立つことができなかと常々思っていました。なかなかかなわず、内心じくじたるものがありました。ところが、先般、若松鉷山が国の近代化産業遺産に認定されました。これは正に比類なき最大のチャンスを与えられたことと思います。

幸い若松鉷山は、最近まで生産活動をしていた鉷山ですので、設備、機械、道具等が全部ではありませんが相当量残っています。このことはとても稀有なことです。日南町さんにこれらを有効に使っていただき、日南町、多里地区の活性化のお役に立つことができれば幸いです。

FUNAKOSHI Hiroyuki (2009) : About Wakamatsu chromite mine as a Heritage Constellation of Industrial Modernization.

<受付: 2009年10月20日>



第1図 中切二坑々口での若松鉷山二代目社長(写真右)と三代目(現)社長(写真左)昭和45年頃撮影。

1) 日本クローム工業株式会社 代表取締役社長

キーワード: 日本クローム工業, 若松鉷山, 近代化産業遺産, 耐火煉瓦